

金融危機後の世界：  
変化する経済、経済学と中央銀行

——「ニッポンの革新力」シンポジウム基調講演——

2018年10月25日

日本銀行副総裁

若田部 昌澄

『リヴァイアサン』（1651）

（図表 1）

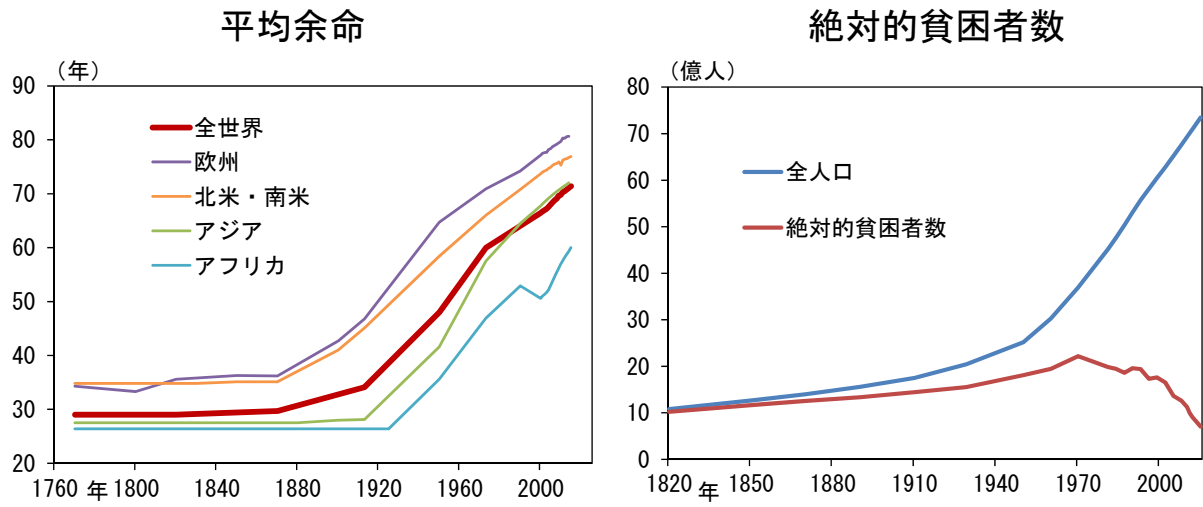
Thomas Hobbes (1588–1679)

“the life of man, solitary, poore [*sic*],  
nasty, brutish, and short”

「人生は孤独で、貧しく、  
不潔で、野蛮で、短い」

# 人類の進歩

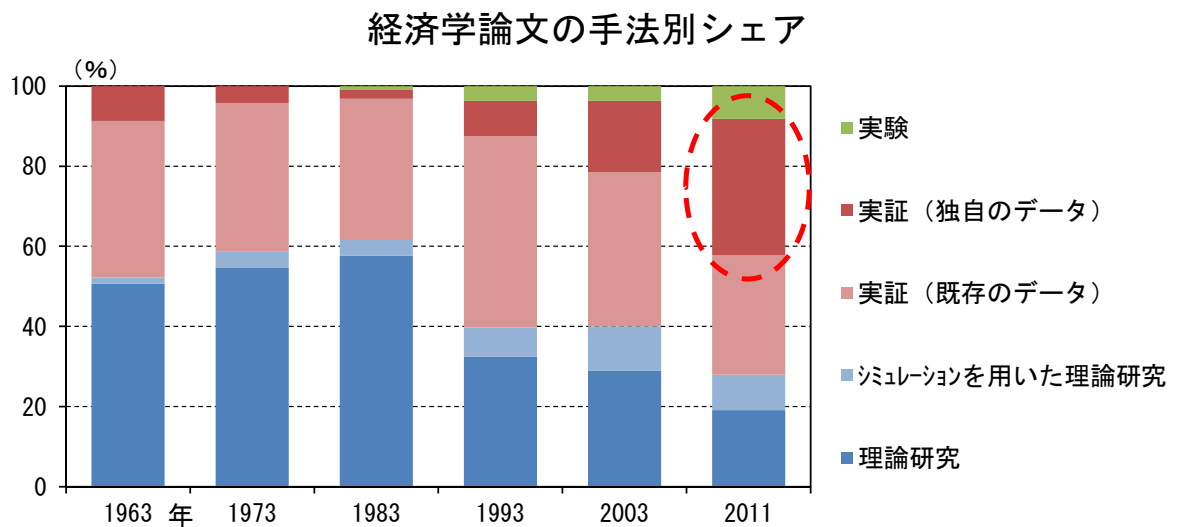
(図表 2)



(出所) Our World in Data

# 変化する経済学

(図表 3)

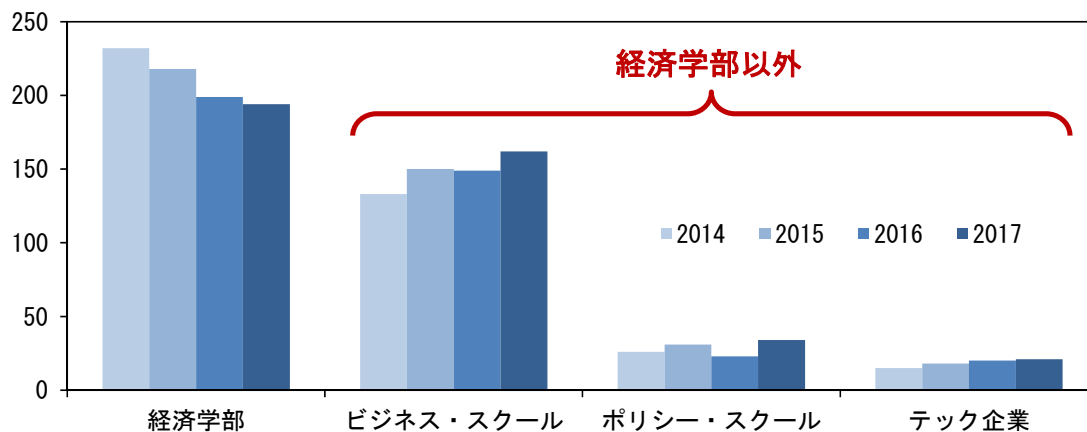


(出所) Hamermesh (2013)

(図表 4)

## 経済学の適用範囲の拡大

### 経済学博士号取得者に対する求人数



- (注) 1. 各年の計数は当年2月から翌年1月までが対象。  
 2. テック企業は求人を行った企業数(1社が複数名を募集することがありうる)。  
 (出所) Athey and Luca (2018)

(図表 5)

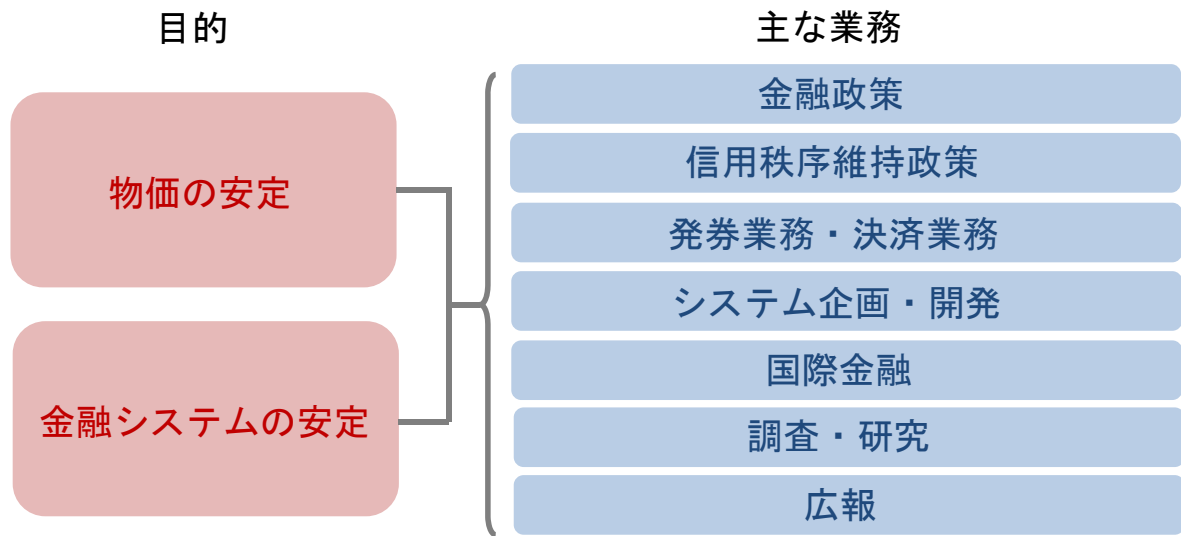
## 各国・地域における中央銀行の創設

	設立年		設立年
スウェーデン・リクスバンク	1668	日本銀行	1882
イングランド銀行	1694	イタリア銀行	1893
フランス銀行	1800	スイス国民銀行	1907
オランダ中央銀行	1814	米国連邦準備制度	1913
ベルギー国民銀行	1850	カナダ銀行	1934
ドイツ・ライヒスバンク	1876	欧州中央銀行	1998

(出所) 各中央銀行

(図表 6)

# 日本銀行の目的と業務

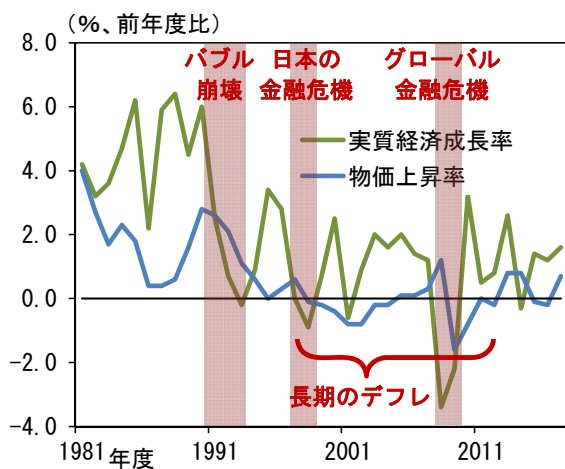


(出所) 日本銀行

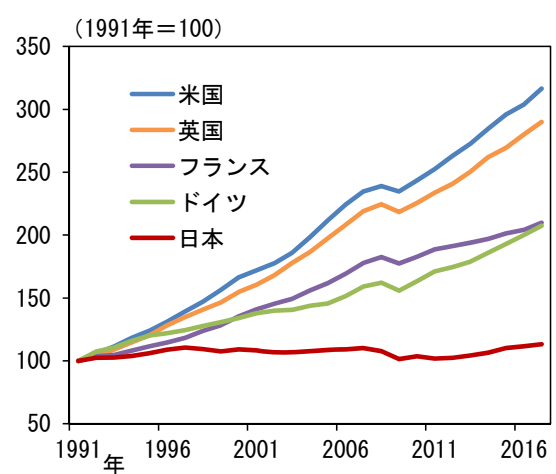
(図表 7)

# 日本の経験

## 日本の実質経済成長率・物価上昇率



## 各国の名目GDPの伸び



(注) 物価上昇率は消費者物価指数(除く生鮮、消費税調整済み)による。

(出所) 内閣府、総務省、IMF、日本銀行

(図表 8)

## 金融広報中央委員会の歴史

### 時代のニーズに合わせた変遷

年	名称	主な活動
1952～	貯蓄増強中央委員会	戦後のインフレの終息と資本蓄積のための資金吸収を企図した国民運動
1988～	貯蓄広報中央委員会	貯蓄関連知識の広報に注力
2001～ 現在	金融広報中央委員会	金融イノベーションが進む中で、自立した消費者の支援と学校における金融教育の普及に注力

(出所) 金融広報中央委員会

(図表 9)

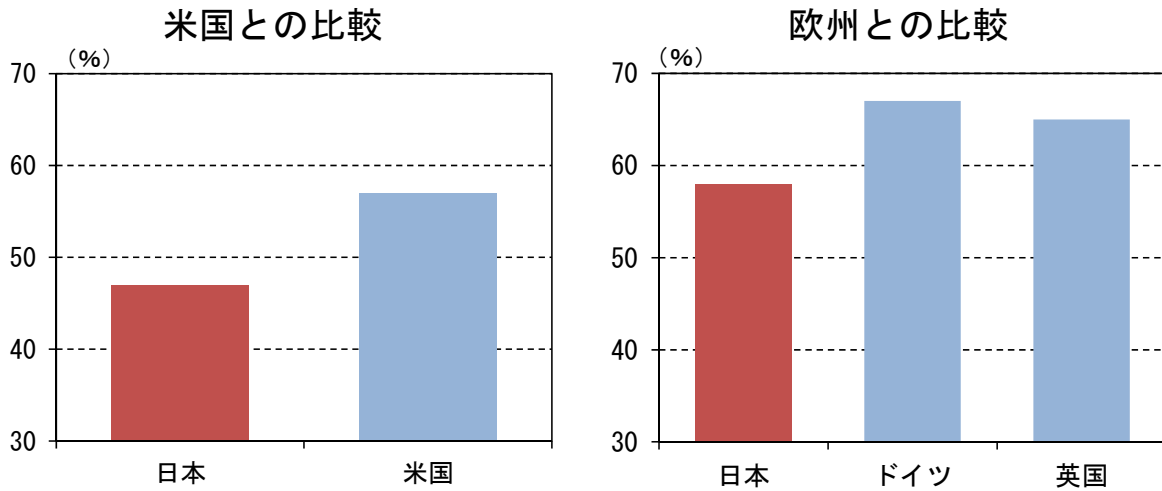
## 金融リテラシー問題

- Q 1. 100万円を年率2%の利息がつく預金口座に預け入れた。5年後には口座の残高はいくらになっているか？
- Q 2. インフレ率が2%で、普通預金口座で受け取る利息が1%なら、1年後にこの口座のお金を使って購入できる物は、今日より増えるか、同じか、減るか？
- Q 3. 「住宅ローンを組む場合、返済期間が15年の場合と30年の場合を比較すると、通常、15年の方が月々の支払い額は多くなるが、支払う金利の総額は少なくなる」  
—— この主張は正しいか、間違っているか？
- Q 4. 「1社の株を買うことは、通常、株式投資信託を買うよりも安全な投資である」  
—— この主張は正しいか、間違っているか？
- Q 5. 金利が上がったら、通常、債券価格は上がるか、変化しないか、下がるか？

(出所) 金融広報中央委員会「金融リテラシー調査（平成28年）」

## 金融リテラシー問題の正答率

(図表10)



(注) 問題5問の平均正答率。なお、米国との比較および欧州との比較は、それぞれ別の設問に基づく（日本の正答率が異なるのはそのため）。  
(出所) 金融広報中央委員会「金融リテラシー調査（平成28年）」

## Simon (1995)

(図表11)

「世界の進歩を加速する燃料は、私たちの知識の蓄積だ。それにブレーキをかけるのは、私たちの想像力の欠如と、そうした活動に対する不適切な社会的規制だ。究極の資源は人々だ——特に技能もやる気もあり、自由を得た希望に満ちた若者たちだ。彼らがその意志と創造力を自分の利益のために発揮すれば、それは必然的に他の皆にも利益をもたらす」